

*すべての問いには句読点・符号などは字数に含むこととします。

一 次の文を読みあとの問いに答えなさい。

子どもの頃に読んだ、ちよつとした話がずっと心のなかに残っていることがある。次に紹介する話も、少年倶楽部^{くらぶ}あたりで読んだのだと思うが、妙に印象的で心のなかに残り続けていたものである。

何人かの人が漁船で海釣りに出かけ、夢中になっているうちに、みるみる夕闇^{ゆふやみ}が迫り暗くなってしまった。あわてて帰りがけたが潮の流れが変わったのか混乱してしまつて、方角がわからなくなり、そのうち暗闇になつてしまい、都合の悪いことに月も出ない。

A ヒッシンになつて灯(たい)まつたか? をかけて方角を知ろうとするが見当がつかない。

そのうち、一同のなかの知恵のある人が、灯を消せと言う。不思議に思いつつ^{きはく}気迫におされて消してしまうと、あたりは真の闇である。しかし、目がだんだんとなれてくると、まつたくの闇と思つていたのに、遠くの方に浜の町の明りのために、そちらの方が、ぼーと明るく見えてきた。そこで帰るべき方角がわかり B ブジに帰つてきた、というのである。

この話を読んで、方向を知るために、一般には自分の行手を照らすと考えられている灯を、消してしまうところが非常に印象的だつたことを覚えている。

子ども心にも何かが深く心に残るということはなかなか意味のあることのように、このエピソードは現在の私の仕事に重要な 示唆^{しそ}を与えてくれている。

子どもが登校しなくなる。困り切つてその母親が相談に行くと、学校の先生が、「過保護に育てたのが悪い」と言う。そうだ、その通りだと思い、それまで子どもの(1)とり(2)とりというような世話をしていたのを C 一切止めにしてしまふ。ところが、子どもは登校しなくなるか、余計に悪くなつてくる気がする。そこで他の人に相談してみると、子どもが育つてゆくためには「甘え」が大切である。子どもに思い切つて甘えさせるといい、と言われる。困ったときの神頼みで、ともかく言われたことをやつてみるがうまくゆかない。どうしていいかわから D ないということで、われわれ D センモン家のところにやつて来られる。

「過保護はいけない」、「甘えさせることが大切」などの考えは、それはそれなり一理があつて間違いだなどとは言えない。しかし、それは 目先を照らしている灯のようなもので、その人にとって 大切なことは、そのような目先の解決を^{あせ}焦つて、灯をあちらこちらとかかげて見るのではなく、一度それを消して、闇のなかで落ち着いて目をこらすことである。そうすると闇と思つていたなかに、ぼーと光が見えてくるように、自分の心の深みから、本当に自分の子どもが望んでいるのは、どのようなことなのか、いつたい子どもを愛するということはどんなことなのか、がだんだんとわかつてくる。そうなつてくると、解決への方向が見えてくるのである。

不安にかられて、それなりの灯をもつて、うろろろする人(このことをできるだけのことをした、と表現する人もある)に対して、灯を消して暫らくの闇に耐えて貰う仕事を共にするのが、われわれ心理療^{りょうほう}法家の役割である。このように言つても、闇は怖いので、

もつとも、不安な人は藁をもつかむ気持ちで居られるので、そのような人に適当に灯を売るのが職業にしている人もある。それはそれなりにまた存在意義もあるので、にわかには善し悪しは言えないが、それはセンモンの心理療法家ではないことは確かである。

別に心理療法なんかを引き合いに出さなくとも、目先を照らす役に立っている灯。それは他人から与えられたものであることが多いを、敢て消してしまい、闇のなかに目をこらして遠い目標を見出そうとする勇氣は、誰にとつても、人生のどこかで必要なことと言つていいのではなからうか。最近はお店あたりの灯を売る人が増えてきたので、ますます、自分の目に頼つて闇の中にもものを見る必要が高くなつていゝと思われぬ。

問一 傍線部 A→E のカタカナを漢字で、漢字は読みを答えなさい。
問二 二重線部 a→e のうち他と異なるものを一つ選びなさい。
問三 (1) とり (2) とり について「細かく・ていねいに」という意味になるように (1) (2) に入る言葉をそれぞれ漢字一字で答えなさい。

問五 傍線部「示唆」の意味として適切なものを次から一つ選びなさい。

問六 傍線部「目先を照らしている灯のようなもの」について以下の問いに答えなさい。

1 どのような表現技法が使われていますか。適切なものを次から一つ選びなさい。

- 2 -

2 傍線部 が具体的に指している考えを文中より三十字以内で抜き出さない。

問七 傍線部 「大切なこと」とありますが、それを説明している部分を文中より二十字以内で抜き出さない。

問八 傍線部 「深い意味」とありますが、それについて筆者はどのように説明していますか。次の選択肢から選びなさい。

ア 子どもの頃の記憶が、過去の自分の職業の本質と密接にかかわっていること。
イ 子どもの頃の記憶が、現在の自分の職業の本質と密接にかかわっていないこと。
ウ 子どもの頃の記憶が、将来の自分の職業の本質と密接にかかわっていないこと。
エ 子どもの頃の記憶が、現在の自分の職業の本質と密接にかかわっていること。

問九 本文の内容と合致しないものを、次の選択肢の中から選びなさい。

ア 目先を照らす灯を敢て消して、闇のなかに目をこらして遠い目標を見出そうとする勇氣は、人生のどこかで必要なことだろう。
イ 「過保護はいけない」、「甘えさせることが大切」などの考えは、間違いである。
ウ 不安にかられて、うろろろする人に対して、灯を消してしばらくの闇に耐えてもらう仕事を共にするのが心理療法家の役割である。
エ 最近はある場あたりの灯を売る人が増えてきたので、自分の目に頼って闇のなかにもものを見る必要が高くなっている。

二 二次の文を読みあとの問いに答えなさい。

夕食のあいだじゅう、恭介はきげんが悪かった。きげんの悪いとき、恭介はいつも思う。僕はジャングルに住みたい。

「もうすぐ、卒業式ね」

すきやきのなべにお砂糖をたしながら、お母さんが言った。

「そうしたら、恭介も中学生か」

お父さんが言った。

「まだだよ。まだ二月だから小学生だよ」

「でも、もうすぐじゃないか。入学手続きだってすませたんだろ」

「うん」

恭介は ぶつちようづらのまま、 しらたきを口いっぱいにはおぼった。

今朝、学校に行ったら、女の子たちがサイン帖をまわしていた。もうすぐおわかれだね、とか、さみしいね、とか、そんなことばかり話していた。ひとりが、恭介のところにもサイン帖を持ってきた。

「俺、書かないよ」

「どうして」

「だって、さみしくねえもん」

女の子は　きまり悪そうにそこに立っていた。

「何だよ。書きたくないんだからいいだろ」

「もういいわよ。暮林くんになんかたのまない」

女の子はサイン帖をかかえたまま、小走りで自分の席にもどった。

みんなの視線が

恭介にあつまる。

「ちえっ、何だよ」

恭介はどすんと席にすわった。机の上に、一時間めの教科書と、ノートと、ふでばこをだす。ちえっ、あいつも見ていた。ななめ前の方から、暮林くんのいじわる、という顔をして、恭介を見ていた。一時間めは算数だった。

担任の大島は男らしくない、と恭介は

思う。たとえば今日だって、

「問五、暮林くん、やってみてくれるかな」

なんて言う。

「問五、暮林やれ」

がふつつだと思う。恭介は立ちあがった。

「わかりませーん」

と言う。算数はきらいじゃないけれど、今朝はなんとなくいやな気分だったし、わかりません、と言えば先生が自分でやってくれることがわかっていた。

「わからないのかぁ。問四のA オウヨウなんだけどなぁ」

先生は頭をかきながら、黒板に問題をといてみた。

「これは基礎だからね。これがわからないと中学に行って B クロウするぞ」

給食は、あげパンと、とん汁と、牛乳とみかんだった。恭介は給食当番で、かつぼうを着て給食をとりにいく。

「やった。とん汁だ」

恭介は、今までとん汁の日に給食当番になったことが一度もなかった。教室のうしろに立って、一人一人の器にとん汁をつぐ。みんなステンレスのお盆を持って一列にならぶ。あと三人、あと二人、あと一人。恭介はドキドキした。あいつの番だ。

「少しにして」

あいつが言う。恭介は、なるべく豚肉の多そうなところを、じゃばつとD 勢いよくつぐ。なみなみとつがれたとん汁をみて、あいつはまゆをしかめた。

「少しにしてって言ったでしょ」

「せんせーっ、野村さんが好き嫌いをします」

恭介が声をはりあげると、大島先生はまのぬけた声でこたえる。

「それはよくないなぁ。野村さん、がんばって食べてごらん」

野村さんは、大きな目できゅっと、恭介をにらみつけた。

お母さんが、恭介のちゃんわんに、くたくたに煮えたすきやきのにんじんを入れた。

「好き嫌いしてると背がのびないわよ」

実際、恭介は背が低かった。野村さんは女子の中でまん中より少し小さく、その野村さんとならんで、ほとんどおなじくらいだった。

「もついらないよ。ごちそうさまっ」

恭介ははしをおいて、二階にあがった。部屋に入るとベッドの上に大の字に横になる。

野村さんの顔がうかんでくる。動物でいうならバンビだ、と恭介は思う。三年生の時にはじめていっしょのクラスになって、四年生は別々で、五年生、六年生とまたいっしょになった。野村さんについて恭介が知っていることといえば、Eホケン委員で、とん汁が嫌いで、女子にしては足がはやい、ことくらいだった。今朝あんなことがあったから、今日は一日、誰も恭介にサイン帖を持ってこなかった。もちろん野村さんもだ。恭介はベッドからおりて、机のひきだしをあげた。青い表紙のサイン帖が入っている。ちえっ、恭介はひきだしをしめて、もう一度ベッドに横になった。

中学にいったら生活がかわるだろうなあ、と恭介は思った。勉強だつてしなくちゃいけないし、先生だつて大島みたいなのにきなやつじゃないにきまっている。野球とか基地ごっこばかりをやっているわけにはいなくなる。クラスのみんなもばらばらになつてしまふ。あいつなんか私立にいつてしまふから、なおさら会えない。あーあ。ジャングルに住みたい。

ジャングルに住んだら、と恭介は考える。勉強もない、家もない、洋服も着ない。穴をほつてその中で暮らそう。ライオンとゴリラを飼おう。狩りをして、その獲物を食べればいい。皮をはいで毛布にしよう。となりのほら穴にいつが住んでいて、僕があいつの分も狩りをしてやる。僕とあいつのほかには人間は誰もいなくて、猿とか、へびとか、しまうとか、ペットっぽくない動物だけが住んでるといい。

(中略)

「あれ」

下駄箱の奥に、白い表紙のノートが入っている。サイン帖だった。

「誰のだろう」

ばらばらとページをめくり、恭介はびくんとして手をとめた。あいつのだ。あいつのサイン帖だ。どのページもみんな、なみちゃんへ、で始まっている。なみちゃんというのは野村さんの名前だった。恭介は、すのこをがたがたとけて校庭にとびだした。冬の透明な空気の中を、思いきり走る。かばんがかたかた鳴る。

家にとびこんで、ただいま、と一声になると、恭介は階段をかけあがり、自分の部屋に入った。かばんの中からサイン帖をだす。野村さんのサイン帖。一ページずつ、たんねんに読む。おなじような言葉ばかりが並んでいた。卒業、思い出、別れ、未来。

「おもしろくないや」

声にだしてそう言つて、恭介はノートを机の上にぼんとほうつた。

その日はそのあとずっと、サイン帖のことが頭をはなれなかった。夕食のあいだも、おふろのあいだも、テレビをみているあいだも、恭介は頭のどこかでサイン帖のことを考えていた。みんなの前で、僕は書かないよつて言つたんだ。書けるわけがないじゃないか。それなのにこっそり下駄箱に入れるなんて、絶対、書いてなんかやるもんか。恭介はいつともより少し早く、自分の部屋にひきあげた。

ドアをあけると、机の上の白いノートがまっさきに目にとびこんでくる。あーあ。やつぱり僕はジャングルに住みたい。ジャングルには卒業なんてないもん。そりゃあ、中学にいけないこともあるかもしれない。あいつよりかわいい子がいて、大島よりぼんやりした教師がいるかもしれない。でも、それはあいつじゃないし、大島じゃない。僕だつて、

今の僕ではなくなってしまうかもしれない。恭介は机の前にすわり、青いサインペンで、ノートに大きくこう書いた。

野村さんへ。

俺たちに明日はない。

暮林恭介

いつか観た映画の題名は、そっくりそのまま今の恭介の気持ちだった。

江國香織『つめたいよるに』

問一 傍線部A～Eのカタカナを漢字で、漢字は読みを答えなさい。

問二 傍線部「ぶつちようづら」の意味として適切なものを次から一つ選びなさい。

ア 無愛想な顔つき

イ 奇妙な顔つき

ウ 類を見ない顔つき

エ 珍しい顔つき

問三 傍線部「しらたきを口いっぱいにほおばった。」とありますが、この時の主人公の気持ちが表れている部分を文中より八字で抜き出しなさい。

問四 傍線部「決まり悪そうにそこに立っていた」とありますが、どのような様子でそこに立っていましたか。次から適切なものを一つ選びなさい。

ア 男の子のやり場が無くなり、何となくやさしい様子。

イ 男の子の立場が悪くなり、何となく困る様子。

ウ 女の子のやり場が無くなり、何となく恥ずかしい様子。

エ 女の子の立場が悪くなり、何となく腹立たしい様子。

問五 傍線部「みんなの視線が恭介にあつまる。」とありますが、なぜですか。その理由として適切なものを次から一つ選びなさい。

ア みんなが、恭介のやさし過ぎる態度を冷やかに受け取ったから。

イ みんなが、恭介のまじめな態度を好意的に受け取ったからから。

ウ みんなが、恭介の意地の悪い態度をあまりよくないことと思ったから。

エ みんなが、恭介の冷やかな態度を怖いと思ったから。

問六 傍線部「担任の大島は男らしくない、と恭介は思う。」とありますが、なぜですか。その理由として適切なものを次から一つ選びなさい。

- ア やる気のない態度をとると、大島先生は励ましてくれるから。
- イ いい加減な態度をしても、大島先生は言い方も注意ものんきな感じだから。
- ウ だらしない態度をとると、大島先生はその場で注意を与えてくれるから。
- エ いい加減な態度をとると、大島先生は反省するまでしつこくお説教をするから。

問七 傍線部「野村さんは、大きな目できゅっと、恭介をにらみつけた。」とありますが、なぜですか。その理由を四十字以内で答えなさい。

問八 傍線部「あーあ。ジャングルに住みたい。」とありますが、この時の主人公の気持ちとして適切なものを次から一つ選びなさい。

- ア ジャングルでは、僕とあいつの他には人間がいないので、二人で暮らせるだろう。
- イ ジャングルでは、ライオンとゴリラを飼って、動物たちとずっと仲良く暮らすことができるだろう。
- ウ ジャングルでは、猿とか、へびとか、しまうとか、ペットっぽくない動物たちとだけ仲良く過ごせるだろう。
- エ ジャングルでは、穴をほってその中で暮らし、誰にも見つからず、一人でひっそりと暮らせるだろう。

問九 傍線部「俺たちに明日はない。」とありますが、主人公はどのような気持ちで、このメッセージを書いたのでしょうか。その気持ちとして適切なものを次から一つ選びなさい。

- ア この学校で過ごした時がいそがしく、卒業、思い出、別れ、未来など、明日のことを考える時間さえなく、困っている気持ち。
- イ この学校で過ごした時がいとおしく、卒業、思い出、別れ、未来など、現在を過去のものにはどうしてもしたくない気持ち。
- ウ この学校で過ごした時間がいいかげんなものだったので、まだ努力をしなければ卒業をすることなどできないという、あせる気持ち。
- エ この学校で過ごした時間に満足できており、卒業に向けて、仲間と共にサイン帖を協力して書き上げようとする誠実な気持ち。

問一 ア 苦勞 イ 一列 ウ いきお (い) エ 横 オ きち
問二 ア
問三 きげんが悪かった
問四 エ
問五 ウ
問六 イ
問七 嫌いなとん汁をなみなみとつがれた上に、先生に食べ物の好き嫌いを注意されたか
ら。(三十九字)
問八 ア
問九 イ